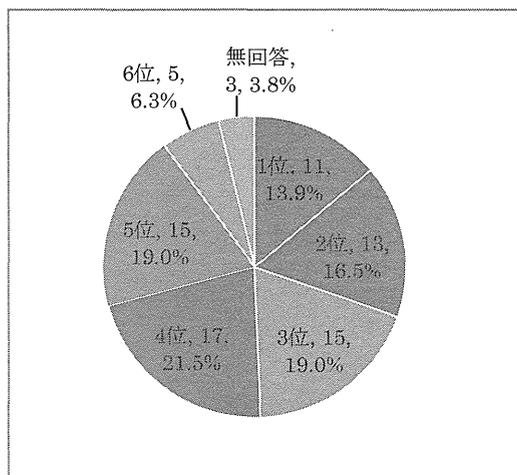
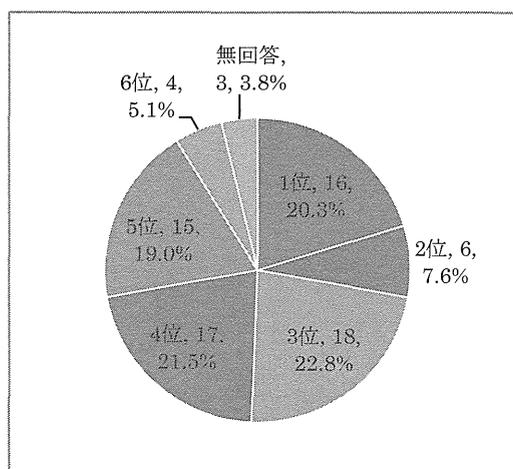


図4-4 健康管理

(相談支援事業利用開始時)



(現在)



5) 金銭管理

相談支援事業利用開始時、現在ともに対象利用者が大切にしていると思われる割合は高くもなく低くもなかった。

表6-1 金銭管理

(相談支援事業利用開始時)

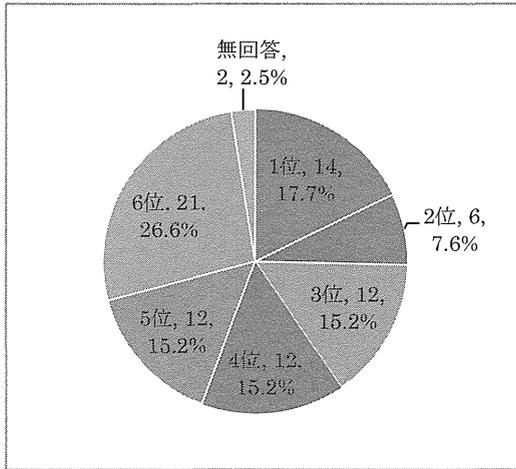
	度数	パーセント
1位	14	17.7
2位	6	7.6
3位	12	15.2
4位	12	15.2
5位	12	15.2
6位	21	26.6
無回答	2	2.5
合計	79	100.0

(現在)

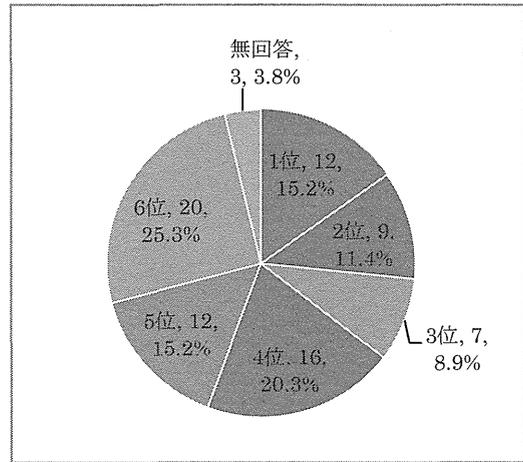
	度数	パーセント
1位	12	15.2
2位	9	11.4
3位	7	8.9
4位	16	20.3
5位	12	15.2
6位	20	25.3
無回答	3	3.8
合計	79	100.0

図45 金銭管理

(相談支援事業利用開始時)



(現在)



6) 移動・交通・住宅環境

相談支援事業利用開始時、現在ともに対象利用者が大切にしていると思われる割合は高くもなく低くもなかった。

表62 移動・交通・住宅環境

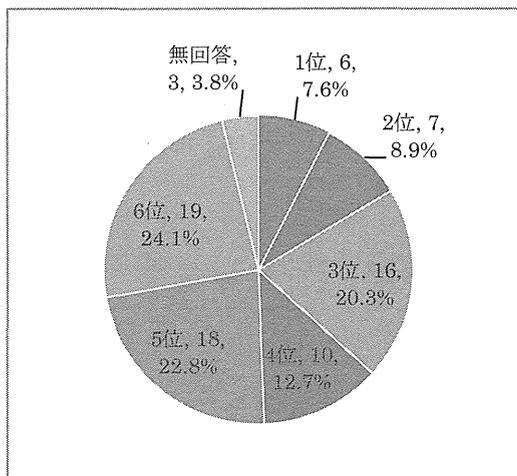
(相談支援事業利用開始時)

	度数	パーセント
1位	6	7.6
2位	7	8.9
3位	16	20.3
4位	10	12.7
5位	18	22.8
6位	19	24.1
無回答	3	3.8
合計	79	100.0

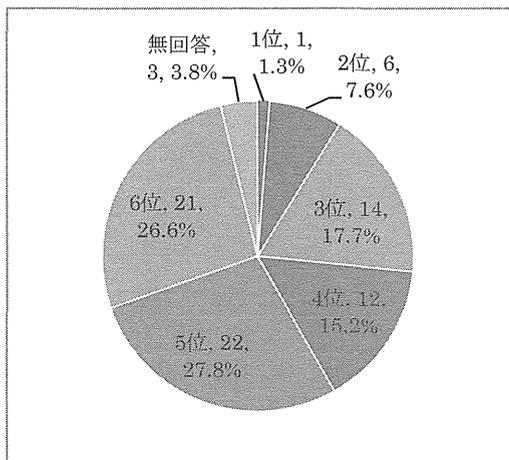
(現在)

	度数	パーセント
1位	1	1.3
2位	6	7.6
3位	14	17.7
4位	12	15.2
5位	22	27.8
6位	21	26.6
無回答	3	3.8
合計	79	100.0

図46 移動・交通・住宅環境  
(相談支援事業利用開始時)



(現在)



(7) 利用者の在宅生活の状況は利用者の評価と一致していると思うか

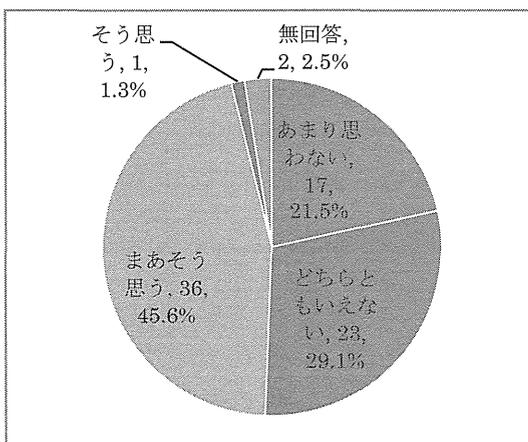
利用者の在宅生活の状況について相談支援専門員と利用者の評価が一致していると思うかという項目について、あまり思わないが 17 名 (21.5%)、どちらともいえないが 23 名 (29.1%)、まあそう思うが 36 名 (45.6%)、そう思うが 1 名 (1.3%) であった。

このように、利用者の在宅生活の状況について相談支援専門員と利用者の評価がある程度一致しているとされる傾向にあった。

表63 利用者の評価との一致度

	度数	パーセント
あまり思わない	17	21.5
どちらともいえない	23	29.1
まあそう思う	36	45.6
そう思う	1	1.3
無回答	2	2.5
合計	79	100.0

図47 利用者の評価との一致度



(8) 相談支援が利用者の評価の変化に影響していると考えるか

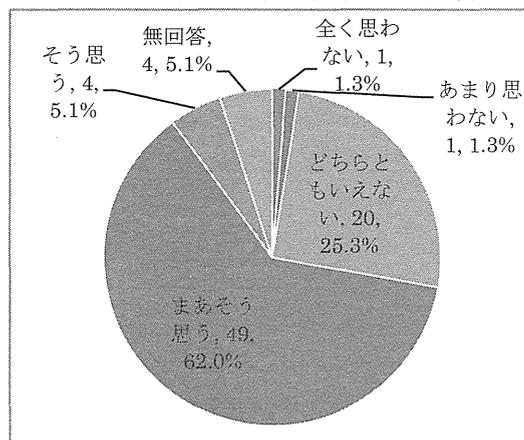
相談支援専門員の相談支援が利用者の評価の変化に影響しているかという項目について、全く思わないが1名(1.3%)、あまり思わないが1名(1.3%)、どちらともいえないが20名(25.3%)、まあそう思うが49名(62.0%)、そう思うが4名(5.1%)であった。

このように、相談支援専門員の相談支援が利用者の評価の変化にある程度影響しているとされる傾向にあった。

表64 利用者の評価の変化への影響

	度数	パーセント
全く思わない	1	1.3
あまり思わない	1	1.3
どちらともいえない	20	25.3
まあそう思う	49	62.0
そう思う	4	5.1
無回答	4	5.1
合計	79	100.0

図48 利用者の評価の変化への影響



(9) 相談支援が利用者の評価の変化に影響している場合どのような領域に影響を与えたと考えるか

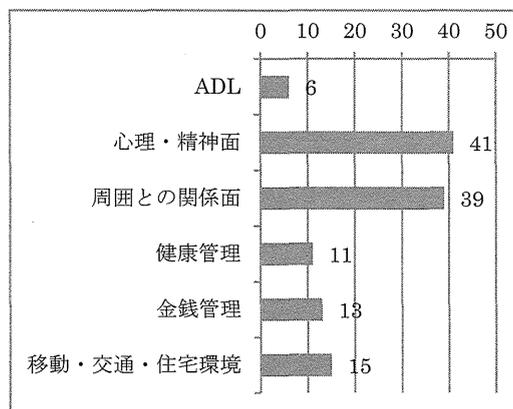
相談支援がどのような面において利用者の評価の変化に影響を与えるかという項目について、ADLが6名、心理・精神面が41名、周囲との関係面が39名、健康管理が11名、金銭管理が13名、移動・交通・住宅環境が15名であった。

このように、相談支援が利用者の評価の変化に影響を及ぼすことが想定される面について、心理・精神面や周囲との関係面が多くあげられる傾向にあった。

表65 評価の変化に影響を与える領域

	度数
ADL	6
心理・精神面	41
周囲との関係面	39
健康管理	11
金銭管理	13
移動・交通・住宅環境	15

図49 評価の変化に影響を与える領域



(10) 相談支援が利用者の評価の変化に影響している場合どのような支援内容がその変化に関連していると考えるか

どのような相談支援の支援内容が利用者の評価に影響していると考えられるかということについて、本人の意向を尊重し、緊急性の高いニーズに対応することの重要性が指摘される傾向にあった。

1) 本人の生命・生活の維持からニーズの緊急性・優先度を考える

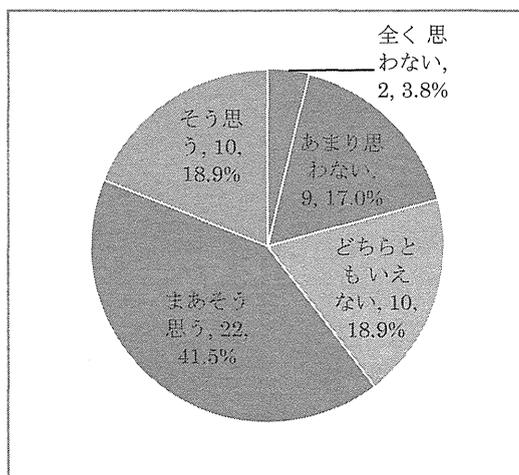
全く思わないが2名(3.8%)、あまり思わないが9名(17.0%)、どちらともいえないが10名(18.9%)、まあそう思うが22名(41.5%)、そう思うが10名(18.9%)であった。

このように本人の生命・生活の維持からニーズの緊急性・優先度を考えるということについては、ある程度利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表66 ニーズの緊急性・優先度を考える

	度数	パーセント
全く思わない	2	3.8
あまり思わない	9	17.0
どちらともいえない	10	18.9
まあそう思う	22	41.5
そう思う	10	18.9
合計	53	100.0

図50 ニーズの緊急性・優先度を考える



2) 本人・家族・介護者から情報収集する

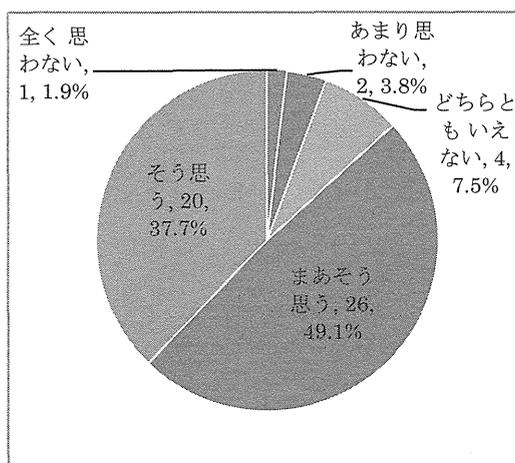
全く思わないが1名(1.9%)、あまり思わないが2名(3.8%)、どちらともいえないが4名(7.5%)、まあそう思うが26名(49.1%)、そう思うが20名(37.7%)であった。

このように本人・家族・介護者から情報収集するということについては、ある程度利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表 6 7 情報収集する

	度数	パーセント
全く思わない	1	1.9
あまり思わない	2	3.8
どちらともいえない	4	7.5
まあそう思う	26	49.1
そう思う	20	37.7
合計	53	100.0

図 5 1 情報収集する



3) 困っていることを傾聴し引き出す

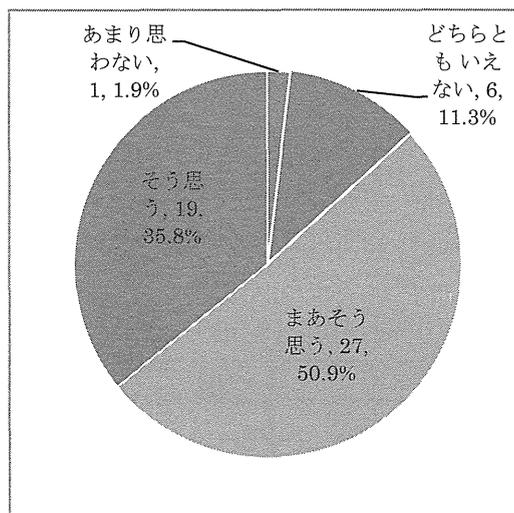
あまり思わないが 1 名 (1.9%)、どちらともいえないが 6 名 (11.3%)、まあそう思うが 27 名 (50.9%)、そう思うが 19 名 (35.8%) であった。

このように困っていることを傾聴し引き出すということについては、ある程度利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表 6 8 困っていることを引き出す

	度数	パーセント
あまり思わない	1	1.9
どちらともいえない	6	11.3
まあそう思う	27	50.9
そう思う	19	35.8
合計	53	100.0

図 5 2 困っていることを引き出す



#### 4) 希望を傾聴し引き出す

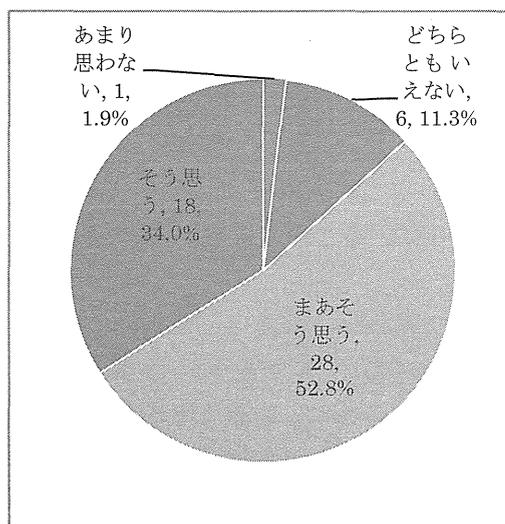
あまり思わないが 1 名 (1.9%)、どちらともいえないが 6 名 (11.3%)、まあそう思うが 28 名 (52.8%)、そう思うが 18 名 (34.0%) であった。

このように希望を傾聴し引き出すということについては、ある程度利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表 6 9 希望を傾聴し引き出す

	度数	パーセント
あまり思わない	1	1.9
どちらともいえない	6	11.3
まあそう思う	28	52.8
そう思う	18	34.0
合計	53	100.0

図 5 3 希望を傾聴し引き出す



#### 5) 本人の意向を確認する

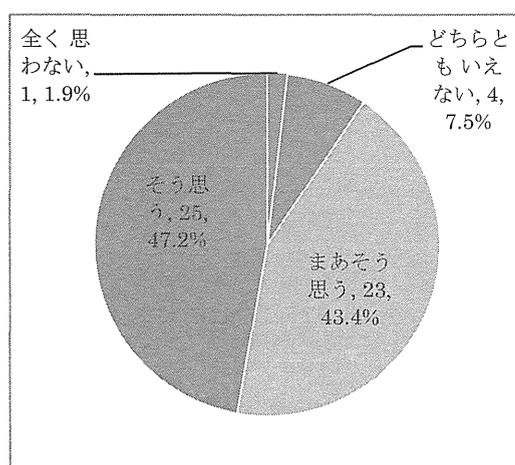
全く思わないが 1 名 (1.9%)、どちらともいえないが 4 名 (7.5%)、まあそう思うが 23 名 (43.4%)、そう思うが 25 名 (47.2%) であった。

このように本人の意向を確認するというということについては、利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表 7 0 本人の意向を確認する

	度数	パーセント
全く思わない	1	1.9
どちらともいえない	4	7.5
まあそう思う	23	43.4
そう思う	25	47.2
合計	53	100.0

図 5 4 本人の意向を確認する



## 6) 信頼関係を築く

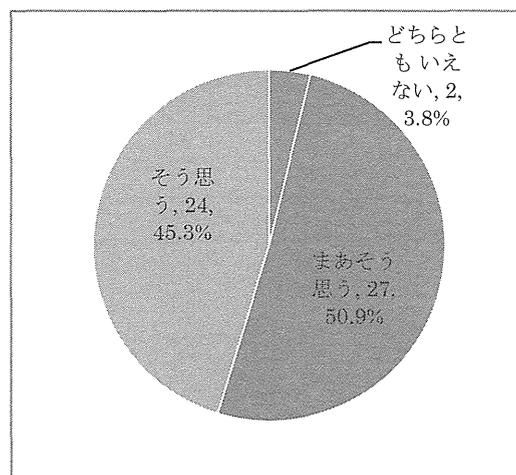
どちらともいえないが2名(11.3%)、まあそう思うが27名(50.9%)、そう思うが24名(45.3%)であった。

このように信頼関係を築くということについては、ある程度利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表 7 1 信頼関係を築く

	度数	パーセント
どちらともいえない	2	3.8
まあそう思う	27	50.9
そう思う	24	45.3
合計	53	100.0

図 5 5 信頼関係を築く



## 7) 緊急性の高いニーズに対し早期に集中して提供準備を行う

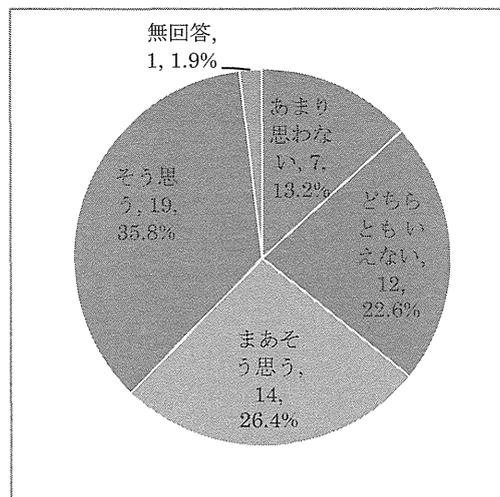
あまり思わないが7名(13.2%)、どちらともいえないが12名(22.6%)、まあそう思うが14名(26.4%)、そう思うが19名(35.8%)であった。

このように緊急性の高いニーズに対し早期に集中して提供準備を行うということについては、利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表 7 2 緊急性の高いニーズに対応する

	度数	パーセント
あまり思わない	7	13.2
どちらともいえない	12	22.6
まあそう思う	14	26.4
そう思う	19	35.8
無回答	1	1.9
合計	53	100.0

図 5 6 緊急性の高いニーズに対応する



8) サービスの提供にあたり事業者と詳細な調整を行う

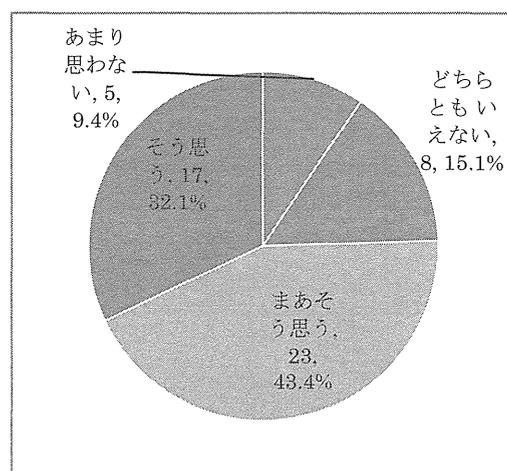
あまり思わないが 5 名 (9.4%)、どちらともいえないが 8 名 (15.1%)、まあそう思うが 23 名 (43.4%)、そう思うが 17 名 (32.1%) であった。

このようにサービスの提供にあたり事業者と詳細な調整を行うということということについては、ある程度利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表 7 3 事業者と詳細な調整を行う

	度数	パーセント
あまり思わない	5	9.4
どちらともいえない	8	15.1
まあそう思う	23	43.4
そう思う	17	32.1
合計	53	100.0

図 5 7 事業者と詳細な調整を行う



9) チームメンバーがチームで援助することを確認する

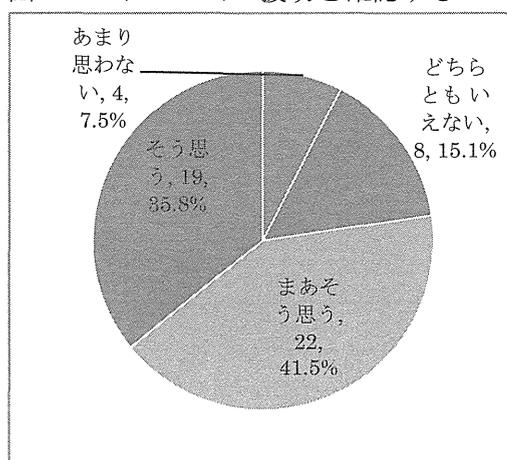
あまり思わないが 4 名 (7.5%)、どちらともいえないが 8 名 (15.1%)、まあそう思うが 22 名 (41.5%)、そう思うが 19 名 (35.8%) であった。

このようにチームメンバーがチームで援助することを確認するというということについては、ある程度利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表 7 4 チームでの援助を確認する

	度数	パーセント
あまり思わない	4	7.5
どちらともいえない	8	15.1
まあそう思う	22	41.5
そう思う	19	35.8
合計	53	100.0

図 5 8 チームでの援助を確認する



10) 利用者ニーズの現状や変化を把握する

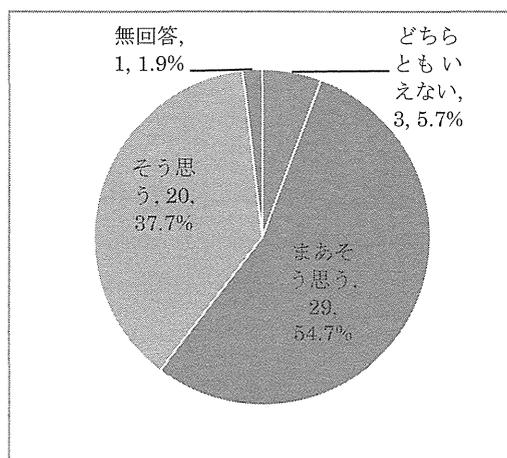
どちらともいえないが3名(5.7%)、まあそう思うが29名(54.7%)、そう思うが20名(37.7%)であった。

このように利用者ニーズの現状や変化を把握するということについては、ある程度利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表75 ニーズの現状や変化を把握する

	度数	パーセント
どちらともいえない	3	5.7
まあそう思う	29	54.7
そう思う	20	37.7
無回答	1	1.9
合計	53	100.0

図59 ニーズの現状や変化を把握する



11) 利用開始後の利用者の状況・不安や苦情を確認し対応する

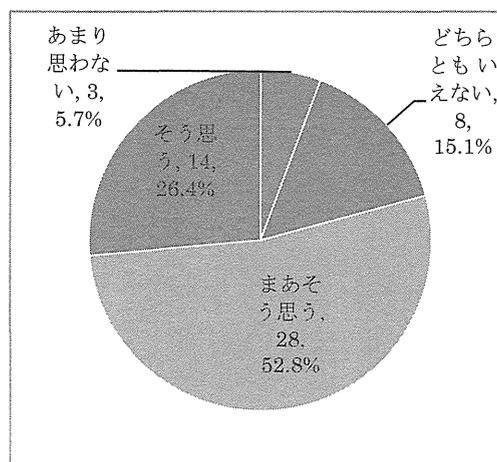
あまり思わないが3名(5.7%)、どちらともいえないが8名(15.1%)、まあそう思うが28名(52.8%)、そう思うが14名(26.4%)であった。

このように利用開始後の利用者の状況・不安や苦情を確認し対応するということについては、ある程度利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表76 不安や苦情を確認し対応する

	度数	パーセント
あまり思わない	3	5.7
どちらともいえない	8	15.1
まあそう思う	28	52.8
そう思う	14	26.4
合計	53	100.0

図60 不安や苦情を確認し対応する



## 1 2) サービス提供の結果をチームメンバーから把握する

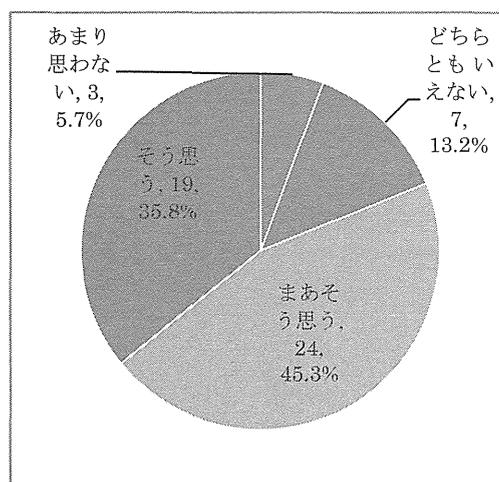
あまり思わないが 3 名 (5.7%)、どちらともいえないが 7 名 (13.2%)、まあそう思うが 24 名 (45.3%)、そう思うが 19 名 (35.8%) であった。

このようにサービス提供の結果をチームメンバーから把握するという事ということについては、ある程度利用者の評価の変化に影響しているとされる傾向にあった。

表 7 7 サービス提供の結果を把握する

	度数	パーセント
あまり思わない	3	5.7
どちらともいえない	7	13.2
まあそう思う	24	45.3
そう思う	19	35.8
合計	53	100.0

図 6 1 サービス提供の結果を把握する



## (1 1) 地域における相談支援事業利用開始時と現在の地域で暮らす利用者の力

相談支援事業開始時と比べて現在では地域で暮らす力があると評価される傾向にあった。

### 1) 相談支援事業利用開始時と現在

相談支援事業利用開始時では、地域で暮らす力があつたが 18 名 (22.8%)、どちらかといえば地域で暮らす力があつたが 40 名 (50.6%)、どちらかといえば地域で暮らす力はなかつたが 11 名 (13.9%)、地域で暮らす力はなかつたが 7 名 (8.9%) であった。

一方、現在では、地域で暮らす力があるが 36 名 (45.6%)、どちらかといえば地域で暮らす力があるが 35 名 (44.3%)、どちらかといえば地域で暮らす力はないが 5 名 (6.3%)、地域で暮らす力はないが 3 名 (3.8%) であった。

このように、相談支援事業利用開始時ではどちらかという地域で暮らす力があると評価される傾向にあったのに対して、現在では地域で暮らす力があると評価される傾向にあった。

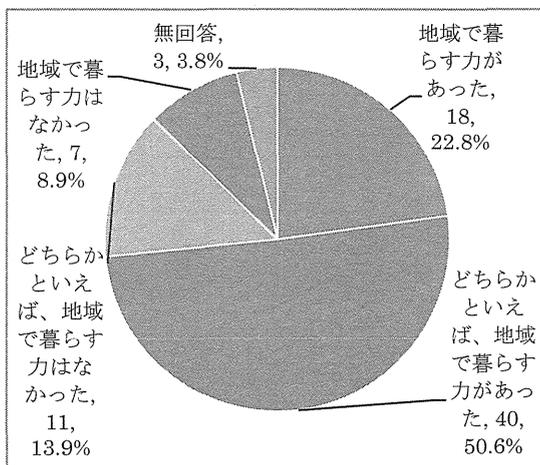
表 7 8 相談支援事業利用開始時と現在  
(相談支援事業利用開始時)

	度数	パーセント
地域で暮らす力があつた	18	22.8
どちらかといえば、地域で暮らす力があつた	40	50.6
どちらかといえば、地域で暮らす力はなかつた	11	13.9
地域で暮らす力はなかつた	7	8.9
無回答	3	3.8
合計	79	100.0

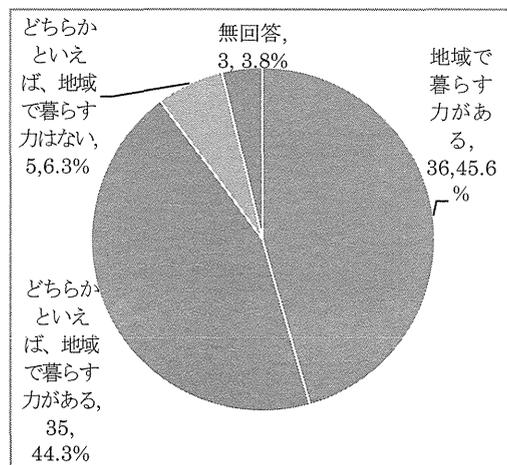
(現在)

	度数	パーセント
地域で暮らす力がある	36	45.6
どちらかといえば、地域で暮らす力がある	35	44.3
どちらかといえば、地域で暮らす力はない	5	6.3
無回答	3	3.8
合計	79	100.0

図 6 2 相談支援事業利用開始時と現在  
(相談支援事業利用開始時)



(現在)



(1 2) 地域における相談支援事業利用開始時と現在の地域で暮らす利用者の力 (障害種別)

相談支援事業開始時と比べて現在では障害種別に見て全般的に地域で暮らす力があると評価される傾向にあった。

1) 相談支援事業利用開始時と現在 (障害種別)

相談支援事業利用開始時では、身体障害のある利用者は他の障害のある利用者に比べてどちらかという地域で暮らす力があつたとされる傾向にあったが、知的障害のある利用者はどちらかといえば地域で暮らす力はなかつたとされる傾向にあった。

一方、現在では、全体的に地域で暮らす力があるとされ、身体障害のある利用者は他の利用者に比べて地域で暮らす力があるとされる傾向にあり、知的障害のある利用者はどちらかという地域で暮らす力があるとされる傾向にあった。

表 7 9 相談支援事業利用開始時と現在（障害種別）

（相談支援事業利用開始時）

障害種別	身体障害	度数	地域で暮らす利用者の力				合計
			地域で暮らす 力があつた	どちらかとい えば地域で暮 らす力があつ た	どちらかとい えば地域で暮 らす力はな かつた	地域で暮らす 力はなかつた	
		障害種別の %	20.0%	60.0%	10.0%	10.0%	100.0%
	知的障害	度数	5	7	5	2	19
		障害種別の %	26.3%	36.8%	26.3%	10.5%	100.0%
	精神障害	度数	4	6	2	1	13
		障害種別の %	30.8%	46.2%	15.4%	7.7%	100.0%
合計		度数	11	19	8	4	42
		障害種別の %	26.2%	45.2%	19.0%	9.5%	100.0%

（現在）

障害種別	身体障害	度数	地域で暮らす利用者の力			合計
			地域で暮らす 力がある	どちらかとい えば地域で暮 らす力がある	どちらかとい えば地域で暮 らす力はない	
		障害種別の %	60.0%	30.0%	10.0%	100.0%
	知的障害	度数	8	11	0	19
		障害種別の %	42.1%	57.9%	0.0%	100.0%
	精神障害	度数	6	5	2	13
		障害種別の %	46.2%	38.5%	15.4%	100.0%
合計		度数	20	19	3	42
		障害種別の %	47.6%	45.2%	7.1%	100.0%

（1 3）地域における相談支援事業利用開始時と現在の地域で暮らす利用者の力の変化

相談支援事業利用開始時と現在との対象利用者の地域で暮らす力を比較したところ、有意な改善が見られた。

1) 相談支援事業利用開始時と現在の変化

相談支援事業利用開始時と現在との対象利用者の地域で暮らす力を比較するために、対応のない t 検定を行った。その際、自立度の高い順に 4 点から 1 点を割り振り分析を行った。その結果、地域で暮らす利用者の力について有意な改善が見られた。

表 8 0 相談支援事業利用開始時と現在の変化

	相談支援事業利用開始時		現在		p
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
地域で暮らす利用者の力	2.9	0.9	3.4	0.6	0.00**

\*\*p<0.0

(14) 地域における相談支援事業利用開始時と現在とで対象利用者が施設入所を考えたことがあるかどうか

相談支援事業開始時と比べて現在では施設入所を考えていないと評価される傾向にあった。

1) 相談支援事業利用開始時と現在

相談支援事業利用開始時では、施設入所を考えていなかったが 55 名 (69.6%)、施設入所を考えはじめていたが 14 名 (17.7%)、実際に施設入所を申し込んだが 2 名 (2.5%) であった。

一方、現在では、施設入所を考えていないが 68 名 (86.1%)、施設入所を考えはじめているが 6 名 (7.6%)、実際に施設入所を申し込んでいるが 1 名 (1.3%) であった。

このように、相談支援事業利用開始時、現在ともに施設入所を考えていないと評価される傾向にあった。

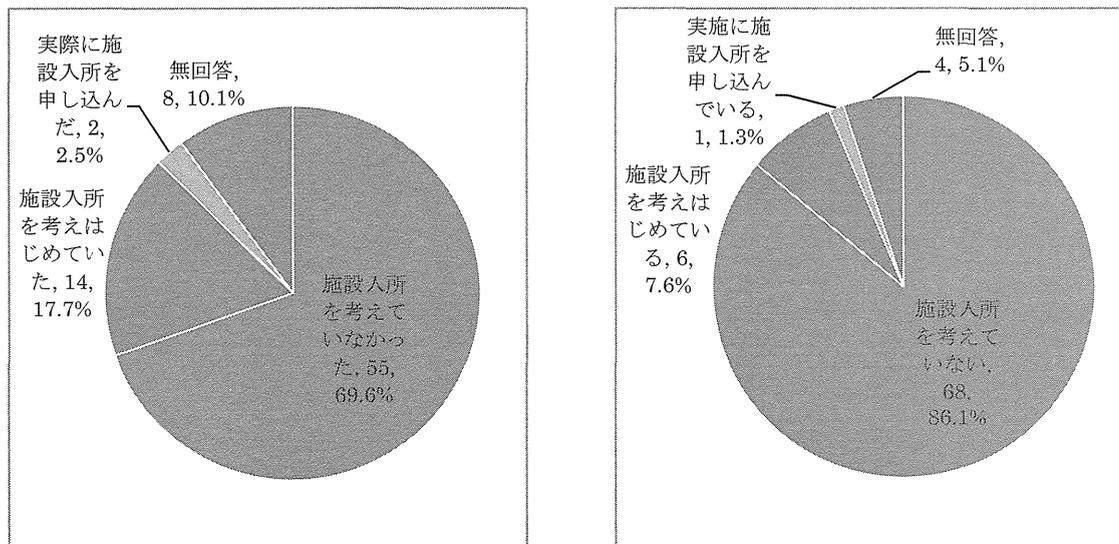
表 8 1 相談支援事業利用開始時と現在  
(相談支援事業利用開始時)

	度数	パーセント
施設入所を考えていなかった	55	69.6
施設入所を考えはじめていた	14	17.7
実際に施設入所を申し込んだ	2	2.5
無回答	8	10.1
合計	79	100.0

(現在)

	度数	パーセント
施設入所を考えていない	68	86.1
施設入所を考えはじめている	6	7.6
実施に施設入所を申し込んでいる	1	1.3
無回答	4	5.1
合計	79	100.0

図 6 3 相談支援事業利用開始時



(15) 地域における相談支援事業利用開始時と現在とで対象利用者が施設入所を考えたことがあるかどうか (障害種別)

相談支援事業開始時と比べて現在では障害種別に見て施設入所を考えていないと評価される傾向にあった。

1) 相談支援事業利用開始時と現在 (障害種別)

相談支援事業利用開始時では、身体障害のある利用者は他の障害のある利用者に比べて施設入所を考えていなかったとされる傾向にあったが、知的障害のある利用者は施設入所を考え始めていたとされる傾向にあった。

一方、現在では全体的に施設入所を考えていないとされる傾向にあったが、知的障害のある利用者は施設入所を考え始めているとされる傾向にあった。

表 8 2 相談支援事業利用開始時と現在（障害種別）  
（相談支援事業利用開始時）

			施設入所に関して考えたことがあるか			合計
			施設入所を考 えていなかっ た	施設入所を考 えはじめてい た	実際に施設入 所を申し込ん だ	
障害種別	身体障害	度数	9	1	0	10
		障害種別の%	90.0%	10.0%	0.0%	100.0%
	知的障害	度数	15	4	0	19
		障害種別の%	78.9%	21.1%	0.0%	100.0%
	精神障害	度数	10	2	1	13
		障害種別の%	76.9%	15.4%	7.7%	100.0%
合計		度数	34	7	1	42
		障害種別の%	81.0%	16.7%	2.4%	100.0%

（現在）

			施設入所に関して考えたことがあるか			合計
			施設入所を考 えていない	施設入所を考 えはじめてい る	実際に施設入 所を申し込ん でいる	
障害種別	身体障害	度数	10	0	0	10
		障害種別の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	知的障害	度数	17	2	0	19
		障害種別の%	89.5%	10.5%	0.0%	100.0%
	精神障害	度数	12	0	1	13
		障害種別の%	92.3%	0.0%	7.7%	100.0%
合計		度数	39	2	1	42
		障害種別の%	92.9%	4.8%	2.4%	100.0%

（16）地域における相談支援事業利用開始時と現在とで対象利用者が施設入所を考えたことがあるかどうかの変化

相談支援事業利用開始時と現在との対象利用者の地施設入所を考えたことがあるかということを比較したところ、有意な改善が見られた。

#### 1) 相談支援事業利用開始時と現在の変化

相談支援事業利用開始時と現在との対象利用者の地施設入所を考えたことがあるかということと比較するために、対応のないt検定を行った。その際、自立度の高い順に4点から1点を割り振り分析を行った。その結果、地施設入所を考えたことがあるかということについて有意な改善が見られた。

表 8 3 相談支援事業利用開始時と現在の変化

	相談支援事業利用開始時		現在		p
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
施設入所を考えたことがあるか	2.7	0.5	2.9	0.4	0.01*

\*p<0.05

(17) 相談支援事業利用開始時と現在とで利用しているサービスの有無

相談支援事業利用開始時と現在とで対象利用者が利用しているサービス利用の有無を比較したところ、居宅介護（ホームヘルプ）や移動支援などでサービス利用の増加が見られる傾向にあった。

1) 居宅介護（ホームヘルプ）

居宅介護（ホームヘルプ）の利用について相談支援事業利用開始時では有りが 12 名（15.2%）、無しが 64 名（81.0%）であった。一方、現在では有りが 29 名（36.7%）、無しが 47 名（59.5%）であった。

このように、相談支援事業利用開始後に居宅介護（ホームヘルプ）の利用は増加する傾向にあった。

表 8 4 居宅介護（ホームヘルプ）

（相談支援事業利用開始時）

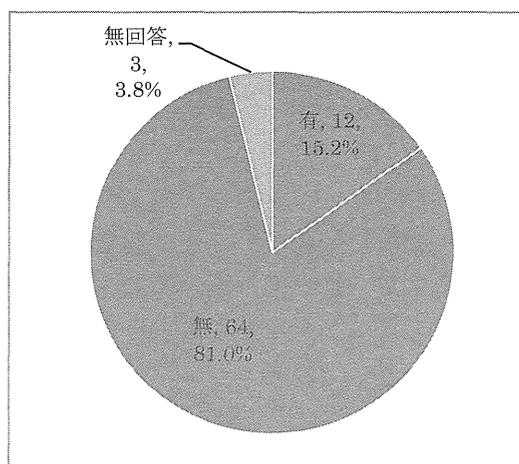
	度数	パーセント
有	12	15.2
無	64	81.0
無回答	3	3.8
合計	79	100.0

（現在）

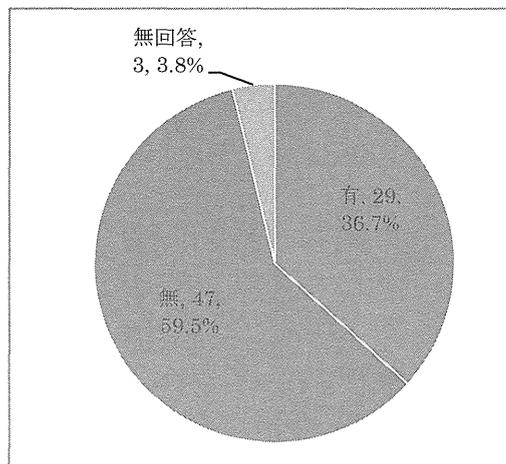
	度数	パーセント
有	29	36.7
無	47	59.5
無回答	3	3.8
合計	79	100.0

図 6 4 居宅介護（ホームヘルプ）

（相談支援事業利用開始時）



（現在）



## 2) 重度訪問介護

重度訪問介護の利用について相談支援事業利用開始時では有りが3名(3.8%)、無しが70名(88.6%)であった。一方、現在では有りが3名(3.8%)、無しが69名(87.3%)であった。

このように、相談支援事業利用開始後でも重度訪問介護の利用は変化が無い傾向にあった。

表 8 5 重度訪問介護

(相談支援事業利用開始時)

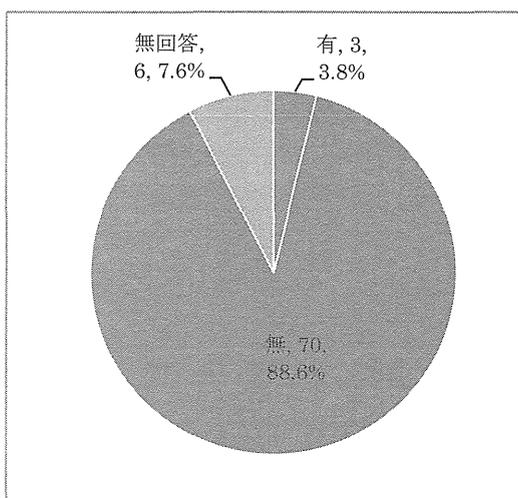
	度数	パーセント
有	3	3.8
無	70	88.6
無回答	6	7.6
合計	79	100.0

(現在)

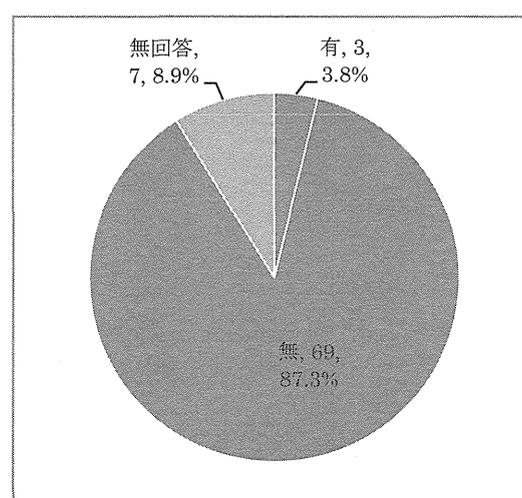
	度数	パーセント
有	3	3.8
無	69	87.3
無回答	7	8.9
合計	79	100.0

図 6 5 重度訪問介護

(相談支援事業利用開始時)



(現在)



## 3) 行動援護

行動援護の利用について相談支援事業利用開始時では有りが1名(1.3%)、無しが72名(91.1%)であった。一方、現在では有りが1名(1.3%)、無しが71名(89.9%)であった。

このように、相談支援事業利用開始後でも行動援護の利用は変化が無い傾向にあった。

表 8 6 行動援護

(相談支援事業利用開始時)

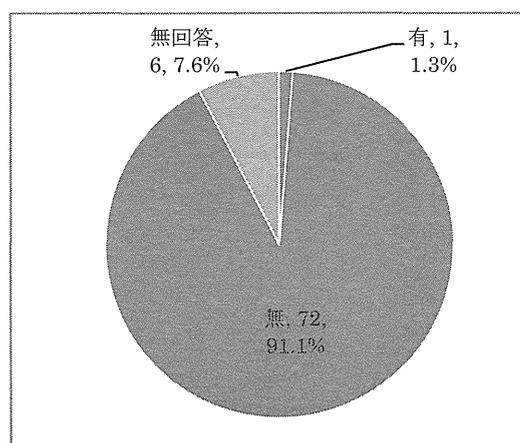
	度数	パーセント
有	1	1.3
無	72	91.1
無回答	6	7.6
合計	79	100.0

(現在)

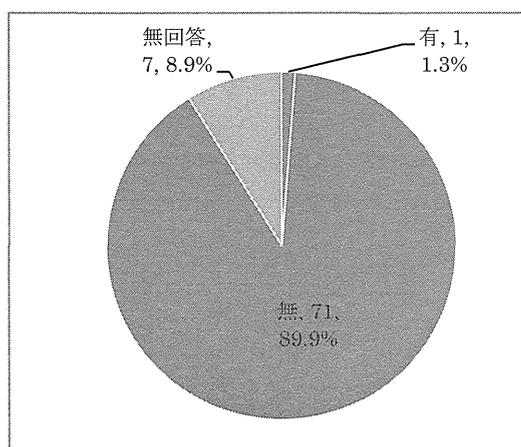
	度数	パーセント
有	1	1.3
無	71	89.9
無回答	7	8.9
合計	79	100.0

図 6 6 行動援護

(相談支援事業利用開始時)



(現在)



#### 4) 同行援護

同行援護の利用について相談支援事業利用開始時では無しが 73 名 (92.4%) であった。一方、無しが 72 名 (91.1%) であった。

このように、相談支援事業利用開始後も同行援護の利用は変化が無い傾向にあった。

表 8 7 同行援護

(相談支援事業利用開始時)

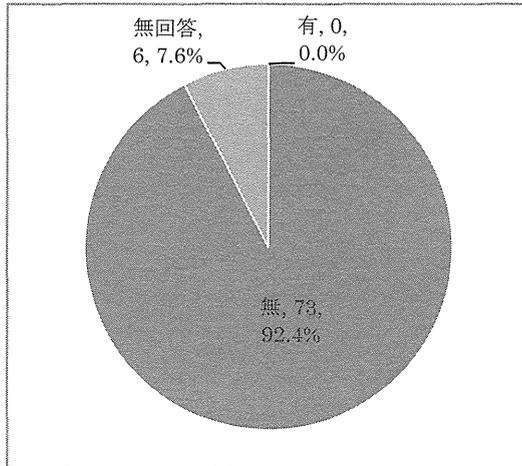
	度数	パーセント
有	0	0.0
無	73	92.4
無回答	6	7.6
合計	79	100.0

(現在)

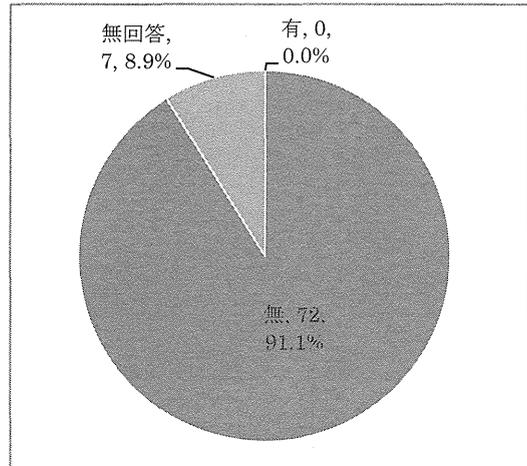
	度数	パーセント
有	0	0.0
無	72	91.1
無回答	7	8.9
合計	79	100.0

図 6 7 同行援護

(相談支援事業利用開始時)



(現在)



5) 重度障害者等包括支援

重度障害者等包括支援の利用について相談支援事業利用開始時では無しが 73 名 (92.4%) であった。一方、無しが 72 名 (91.1%) であった。

このように、相談支援事業利用開始後でも重度障害者等包括支援の利用は変化が無い傾向にあった。

表 8 8 重度障害者等包括支援

(相談支援事業利用開始時)

	度数	パーセント
有	0	0.0
無	73	92.4
無回答	6	7.6
合計	79	100.0

(現在)

	度数	パーセント
有	0	0.0
無	72	91.1
無回答	7	8.9
合計	79	100.0